

天王寺動物園

(大阪市天王寺区)

「生態的展示」で新しい魅力も

大阪市の天王寺動物園は1915年(大正4)月に、日本で3番目の動物園として誕生しました。現在、約11ヘクタールの敷地に、310種、15000頭の動物が飼育されています。年間に160万人が来園します。

いま、全国の動物園では、旭川市の旭山動物園など新しい展示方法が話題ですが、天王寺動物園も例外ではありません。動物の生息地の環境を可能なかぎり再現し、そこに暮らす動物のようすを紹介する「生態的展示」を中心にしていく「ZOO21計画」が進行中です。

そして、先月9月9日には、アフリカ・サバンナ区肉食動物ゾーンができました。東アフリカの国立公園や、野生保護区をモデルに、ライオン、ハイエナなどの肉食動物が実際に生活している環境を再現しています。さながら、現地での動物たちをみている雰囲気なさせてくれます。

秋の休日、天王寺動物園に行ってみました。話題の動物舎付近はたいへんな人だかりです。アフリカ・サバンナ区肉食動物ゾーンは長い行列です。「すごい!」「迫力あるなあ」の声が起こります。「生態的展示」が来園者に好評です。

みゅ〜
ザ・見遊じあむ

13



天王寺動物園は連日家族づれでいっぱいです

ミュージアムメモ

▶所在地/大阪市天王寺区茶臼山町1-108 電話/06-6771-8401▶交通/大阪市地下鉄「動物園前」駅下車すぐ▶開館時間/9時30分~17時 休館日/毎週月曜日(休日にあたる場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月1日)▶入館料/大人500円(中学生以下、65歳以上、身体障害者手帳を持っている人は無料)

「ワールド・トレード・センター」

「9・11同時テロ」での救出活動に焦点



2001年9月11日、午前8時40分すぎ、ニューヨークのワールド・トレード・センターの2つのビルに、ハイジャックされた民間航空機が激突。この「9・11同時多発テロ」での死者は2749人。その国籍は87の国に及びます。このうち救出活動に加わって命をおとした消防士、警察官は400人を超えています。

この映画は、九死に一生を得て救助された2人の警察官とその家族、救出活動を展開した仲間の物語です。港湾警察官のマクローリンとウィルは、緊急出動を受けて現場にむかいますが、ビルの崩壊によって、自らも生き埋めにな

ってしまいます。地底の暗闇のなか、希望と絶望のはざま、お互いに声をかけあい、救出を待つふたり。安否を気づかう2人の家族もまた、落胆と希望と動揺の時間が過ぎていきます。2人の救出はなるのか?。

超高層ビルが崩壊し、ガレキと化した深夜の現場で、生存者の探索に向かう1人の勇敢な海兵隊員。「どうして危険なことをするんだ」の問いかけに、「海兵隊は人を助けることが仕事なんだ」と答えるシーンがあります。ベトナム戦争からイラク戦争まで、米軍の関わった紛争、戦闘での海兵隊の役割を見ているだけに、このあたりはしっくりときませんが、マクローリンとウィルは実在の警察官で、この映画も実話にもとづいています。

あの日から今日まで、テレビで幾度となく流された、衝撃の映像の数々は、むしろこの映画ではできません。生き埋めになった人とその家族たちの家族愛、救助に向かう人たちにも命の保障がないなかでの、勇気ある救助活動だけにしぼった映画です。

大阪の戦跡を歩く

第12歩

飯盛山の国旗掲揚塔

(大東市)

台座には「国威宣揚」の文字が



大東市から四条畷市にかけて、生駒山地の最北部につながるなだらかな丘陵地帯に、飯盛山があります。標高わずか317メートルですが、展望絶好の人気のハイキングコースです。山頂には、この地にゆかりの楠木正行の像とともに、鉄筋コンクリートの塔と石室の建物があります。1939年(昭和

14年)、この年は皇紀2600年という神武天皇から数えて2600年に建てられたもので、日の丸を掲揚して、国威を高めるためのものでした。石室の台座部分は空襲などの見張り台としても使われたといえます。台座には「国威宣揚」とあります。国威宣揚とは、国の威光を世の中にはっきりと示すこと。戦前の日本が天皇の統治する国であることを示すものでした。

撰津

河内
和泉

おおさか
三國誌

13

(大阪市北区)

桂春団治と上方落語

落語という話芸が世に出たのは、今から約300年前、江戸時代中期と言われています。上方では京都の露の五郎兵衛や、大阪の米沢彦八などが、多くの人前で、道端に舞台を設けて自作の噺(はなし)を披露し、銭を稼いだのが落語の起源といわれています。東京の落語と違って、上方落語は、見台(小さい机)、小拍子(小さな拍子木)などの小道具を使ったり、噺の最中に効果音を入れるという特徴があります。近代では、初代の桂春団治がよく知られています。演歌「浪花恋しぐれ」にもうたわれた春団治は大阪市の高津町出身。大正から昭和初期の演芸界で、天才的で巧みな話術を持った上方



9月15日にオープンした「天満天神繁昌亭」

落語のスーパースターでした。レコードでも落語を吹き込み、多くの人を魅了しました。戦後、上方落語協会は1957年(昭和32年)4月に、桂米朝、桂小文枝、などわずか18人で発足しました。

昭和の中期以降から途絶えていた落語専門の定席(小屋)として、2006年(平成18年)9月15日に、大阪天満宮の境内の一部に「天満天神繁昌亭」ができました。戦前、天神橋筋商店街を中心としたこの一帯は、大阪でも有数の歓楽街で、寄席や芝居の小屋がたくさんあったといえます。いま、連日、寄席のちょうちんに灯ががともし、賑わっています。

秋の日の/ヴィオロンの/ためいきの/身にしてみても/ひたぶるに/うら悲し

ポール・ベルレーヌはフランスの詩人(1844~1896)。フランスの象徴主義を代表する詩人。音楽的な詩を書こうとつとめ、細かい感情の動きを象徴的な言葉で表現しました。生涯アルコール中毒になやまされ、友人の詩人・ランボーをピストルで傷つけた事件では、2年間の獄中生活を送りました。詩集に『よき歌』『ことばなき恋歌』。この詩は上田敏の名訳によるもので訳詞集『海潮音』におさめられています。

いまでも心に響く
名詩・名歌・名語録

白玉の歯にしみとおる
秋の夜の
酒は静かに飲むべかりけれ
若山牧水

若山牧水は1885年(明治15)宮崎県臼杵郡東郷郷に生まれました。旅と酒を詠ませると近代歌人ではナンバーワンといわれています。生涯に多くの酒の短歌を詠みましたが、これがいちばん有名で、左党にはシビレ歌でしょう。歌集『路上』に収録されています。よく知られた短歌には「幾山河越えさり行かば寂しさのほなむ国を今日も旅ゆく」「白鳥は哀しからずや空の青海の青にも染まずただよ」などがあります。